

3 研究の仮説

※H30に設定した。(詳しくは平成30年度の研究紀要を参照いただきたい。)

子どもたちは、授業中に文章や仲間・自己との対話を通じて、一度作った自分の考えを見つめ直すことで再構築し、自分の考えを広げたり深めたり、表現したりしている。本次研究では、この過程の中で子ども一人ひとりが「論理的思考力」を身につけていると仮定した。

指導者は、この「論理的思考力」を身につけさせるために、国語科の物語文を教材として、子どもたちに「何をどのように教えるのか」や、単元の始めや毎時間に「どのような見通しを持たせて学習させるのか」について、教材研究したり、具体的な手立てを講じたりすることで、子ども一人ひとりに「論理的思考力」を育むことができると仮説を立てた。

仮説の検証にあたり重視した指導観

- 各学年の各単元の学習で子どもたちに身につけさせたい「思考力・判断力・表現力」を指導者が具体的に把握する。
- 「何をどのように教えるか」という観点のもとに授業改善を図ることと、子ども一人ひとりに学習の見通しを持たせる。

4 研究内容

〈研究主題〉 **研究3年次**

対話を通して、自分の考えを広げ深め、表現できる子どもの育成
～見つめ直した考えを共有し合える国語科の授業を通して～

前年度に課題の見られた「自分の考えを見つめ直すこと」「思考力」および「学びに向かう力」に注力し、子どもたちが自分の考えを仲間に分かりやすく表現する力を伸ばしたり、互いに共有し合い、深め合えるようにできるように働きかけたりして、これまでの研修の総括として3年次研修を進める。

この主題に迫るため、平成30年度に引き続き、次の4点を柱として研究を推進していく。(詳しくは平成30年度の研究紀要を参照いただきたい。)

柱1 各単元で子どもたちに身につけさせたい「論理的思考力」の明確化

- ① 作品の設定を読む。
- ② 登場人物や語り手の視点に着目して読む。
- ③ 表現技法の捉え方を読む。
- ④ 中心人物の変化を読む。
- ⑤ 主題を読む。

(参考文献：『読解力の「活用」が見える32の授業プラン』東洋館出版社 2009.5 刊行)

柱2 「論理的思考力」を育てるための指導方法の工夫

- 単元の最初、初発の感想を書く際に、「学級の仲間とともに考え、解決したい問題や課題」を考えさせ、学級全員の課題意識を統一できるような工夫する。
- どの読みのスキルを使って問題や課題を解けばよいか。課題解決のための見通しをもたせる。
- 話し合う前に、まず自分の考えをノートに書いて整理する時間を取り入れる。
- 話し合いの最中か、後に、もう一度自分の考えを見つめ直す時間を取り入れる。
- 学習したことを振り返って分かったことを明らかにさせる。

柱3 話し合い活動の重視 文章との対話・仲間との対話・自己との対話

※前述の「単元デザイン・授業デザイン モデル」を参照いただきたい。

柱4 学習規律の徹底と学力の基盤づくり

これまでの反省をもとに、北立誠タイムⅠ・Ⅱの内容の変更や質の向上を目指し、外国語活動や道徳科を始め、人権教育・生徒指導・体力向上など、様々な分野の研修を深めることで、全教員が共通理解のもと、学習規律の徹底と学力の基盤づくりに取り組む。

5 研究方法

全教員が授業を公開して参観し合い、積極的に学び合うことで一人ひとりの教員の授業力を高めていきたい。さらに、日頃から、授業について気軽にお互いの考えを言い合ったり話し合ったりできる職員室の雰囲気を作っていきたい。そのために、具体的には次の2つに重きを置いて研修を進める。

① 授業を核にした教員同士の学び合い

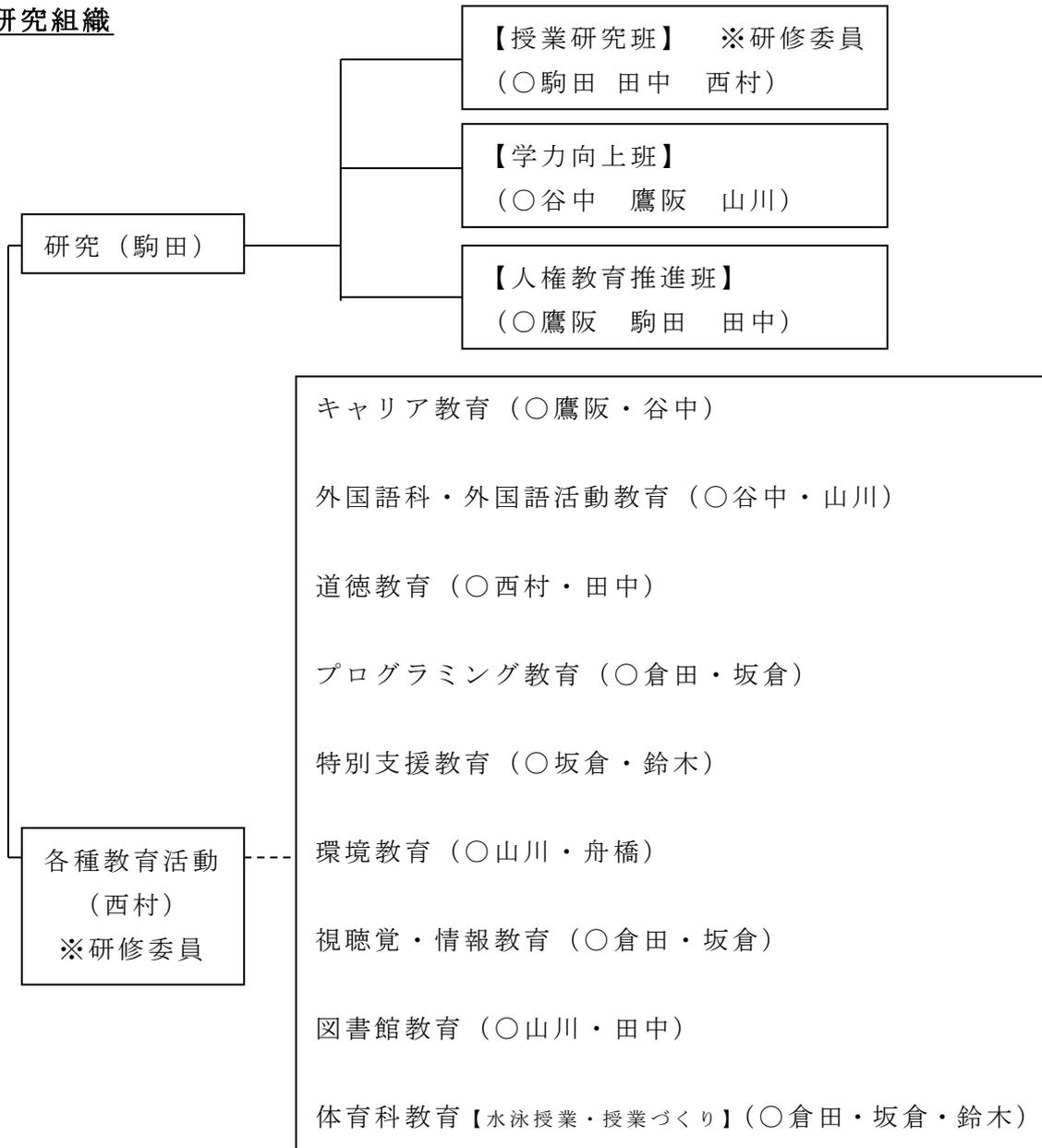
全教員が年間1回以上、研究授業を行う。そのうち、各学年部で1回ずつを全体公開授業とし、全教員で事前研、参観、事後研究会を行う。その際には、大学教授・指導主事等を要請する。その他は学年部公開授業とし、学年部の教員等で参観と事後研究会を行う。事前研究会では、「本時の手立てが子どもたちの主体的な学びにどう働きかけられたか。」「どの子どもが深い学びをできていたか、否か。できていない子ができるようになるには授業者として何をすべきか。」に重きを置いて研修をする。事後研究会は、授業記録や写真・映像を活用して具体的な指導場面と結びつけた話し合い、全教員参加の話し合いとなるようにしていきたい。また、各研究授業のポイントや写真を掲示して、全教員が成果と課題を共有できるようにし、次の研究授業へとつなげていきたい。

② 外部講師の招聘

三重大学教育学部を始めとする外部から講師を招聘し、その専門的な知識から学ぶことを通して研究を深めていく。

6 研究組織・活動

研究組織



※図の中の○は班長を示す。授業研究班及び各種教育活動部長は研修委員を兼務。
必要に応じ、各班長は研修委員会に参加する。

※授業研究時には下記のような学年部で授業研究及び指導案作成を行う。

低学年団	1年団	山埜	西村	喜田	鈴木
	2年団	山口	倉田	山村	（青木）
中学年団	3年団	駒田	田中	村田	坂倉
	4年団	松本	小倉	増田	奥村 中川
高学年団	5年団	谷中	須田	岩脇	油田
	6年団	鷹阪	山川	山添	疋田

研究活動

- ・ 研修委員会は、研究の企画・立案・まとめを行い、全体研修会に諮る。
- ・ 全体研修会は、研修委員会で企画・立案されたものを審議・修正し、決定する。
また、全職員の共通理解の場として授業研究や研修報告・意見交換など全体に関する研究を行う。
- ・ 各学年部会は、教材研究や授業研究等、具体的な活動を行う。
- ・ 原則として、毎月第1・4水曜日は校内研修会を、毎月第2水曜日は班会を位置付ける。
- ・ 毎回の班会の際に次回の校内研修会で提案する内容を検討する。（教育推進計画等は必要に応じて職員会議での提案も行う。）

